

あなたが関心を持つ“グローバルな社会課題”は？

その解決に向けて、どんなアクションを起こしますか？

【基本情報】

氏名・団体名：加藤 里桜

学校名：Clear Lake High School
(現在は日本在住)

① あなたが関心を持つグローバルな社会課題は何ですか？ その課題を選んだ理由や、きっかけとなった出来事・経験などがあれば教えてください。

高校二年のとき、アメリカの公文教室でインターンをした経験は、私に忘れがたい気づきを与えてくれた。最初に担当したのは、英語を話せないメキシコ出身の小学生の女の子だった。彼女は配られたプリントを前に固まったまま、わからないと訴えることもできず、ただ机に座って沈黙していた。その姿を見たとき、私は教育の場で言語の壁に阻まれる子どもが抱える孤立感の深さを痛感した。どうにか力になりたいと思い、私は彼女の名前を呼んで声をかけ、拙いながらもスペイン語で話しかけ続けた。やがて彼女は少しずつ「ここがわからない」と自分の言葉で言えるようになり、学ぶ喜びを取り戻していった。その変化を目の当たりにした瞬間、教育が持つ力と同時に、それを奪われる子どもが抱える不自由を強く意識するようになった。

この体験をきっかけに、私は移民家庭の子どもたち、特に女の子が教育の場で孤立しやすく、学びや未来への希望を失ってしまうという現実を深く考えるようになった。OECDの調査によれば、移民家庭の子どもの学力到達度は同年代より20～30%低く、さらに国連の報告では移民家庭の女兒の中等教育修了率は男児に比べ約1.5倍も低いとされている。つまり、現在の国際的な取り組みや支援策ではまだ十分に届いておらず、教育から取り残される移民女兒の孤立は解消されていない。

衣食住があるだけでは人は生きていけない。希望を持てない状況は、単に「生き延びている」にすぎず、人間としての自由や尊厳を奪うものだと思う。

さらに、教育機会の欠如は一個人の学習にとどまらず、その後の就労や社会参加を妨げ、貧困や孤立の連鎖を生む。低賃金労働や公的扶助への依存につながる構造は、本人の人生を制限するだけでなく、社会全体の持続性にも影響を及ぼす。だからこそ、移民家庭の子どもたちが安心して学び、未来を思い描ける環境を整えることは、個人の権利を守るためだけでなく、社会全体の幸福と安定を築く上でも欠かせない課題であると強く感じている。

② その課題の解決に向けて、あなたが考えるアイデアやアプローチを教えてください。

技術、仕組み、キャンペーンなど、発想そのものを自由に書いてみよう！

EmpowerHer (エンパワー・ハー)

目的

言語・文化の壁で苦しむ女の子に、①安心して話せるロールモデルとの継続的対話、②基礎学力の伴走支援、③自己肯定感と将来意識の回復を提供する。

対象

日本在住の移民家庭の女の子（小3～中3を主対象）。メンターは同等（移民）背景を持つ女性（社会人・大学/大学院生）

具体計画

1. メンターマッチング

- ・ 移民家庭出身の女の子と、同じ背景を持つ女性メンターをAIで自動マッチング
- ・ 言語・学年・関心分野・進路希望などを基準に精度を高める
- ・ 毎週1回のオンライン面談（45分）を基本とし、生活・学習・将来の悩みを自由に語れる場を提供

2. 学習伴走支援

- ・ 算数・国語・英語を中心とした基礎学力ドリルを導入。
- ・ メンターは「先生」ではなく「伴走者」として一緒に考えるスタイル。
- ・ 学習後は短い作文や音声日記を共有し、自分の考えを言語化する練習を行う。
- ・ 母語→日本語への段階的移行を取り入れる。

3. メンター研修と支援

- ・ 事前研修（3時間）：①オンライン安全、②ストーリーテリング技法、③学習支援の基本。
- ・ 月1回のグループ振り返りで課題共有とスキルアップ。
- ・ 教材や進行ガイドを提供し、教育経験がなくても安心して関われる仕組みを整備。
- ・ 難しいケースは専門家（教師・心理士・NPO）へ連携できる仕組みを導入。

4. インセンティブ設計

- ・ 通信費や教材費の補助に加え、謝礼を支給。
- ・ ボランティア時間への換算を実現。（証明書発行）
- ・ 修了後にはデジタルバッジや推薦状を発行し、キャリアに活用可能。
- ・ 年2回のメンター交流会でネットワーク形成を支援。

5. 安全と技術基盤

- ・ 多言語対応のオンラインプラットフォームを用意。
- ・ 通話は録画せず監査ログのみ保存、通報ボタンやNGワード自動検知を搭載。
- ・ 保護者の同意を必須とし、低学年は保護者同席オプションあり。
- ・ 個人情報自動マスク化し、安心して利用できる環境を確保。

あなたが関心を持つ“グローバルな社会課題”は？

その解決に向けて、どんなアクションを起こしますか？

③ そのアイデアを実現するとしたら、どんな準備やステップが必要になると思いますか？

「いつ・どこで・誰と」連携するか、必要なリソースや協力体制など、実現までの道筋を描いてください。

「いつ・どこで・誰と」連携するか

【スケジュール計画】

準備期（1～2か月目）

- ・国際交流NPO・移民支援団体と連携し、対象児童5～8名を募集
- ・大学生・社会人メンター10名を確保、Googleフォーム×スプレッドシートによる仮マッチングを開始
- ・同時に独自AIマッチングシステム（多言語対応・関心分野ベース）の開発を着手
- ・メンター研修（3時間：安全・ストーリーテリング・学習支援）を実施
- ・「日記帳テンプレート」「作文シート」「学習ワークブック」など教材を専門デザイナーと共同開発

実施期（3～9か月目）

- ・週2回オンライン学習支援（宿題・作文・日本語サポート）
- ・週1回45分メンタートーク（生活・進路・キャリア相談）
- ・メンターオンライン交流会：ネットワーク作りのモニタリング
- ・LINEオープンチャットで質問対応&日記添削
- ・隔月アンケートで進捗と心理的安全を確認→改善サイクルに反映
- ・6か月目から独自AIマッチングシステムを導入、効率的で継続性の高い支援を実現

成果イメージ（9か月後）

- ・児童の作文力が平均20～30%向上
- ・全員が「自分の夢」を日本語で発表できるようになる
- ・メンターの半数以上が翌年度も継続参加を希望
- ・成果発表会を開催し、協力団体・学校関係者へ共有

拡大期（翌年度以降）

- ・参加児童20名・メンター30名へ規模拡大
- ・成果報告会をオンライン開催、メンターネットワークを強化
- ・NPOと協働し制度化、継続的な伴走支援を確立
- ・独自AIマッチングを他地域・他校へ拡大活用

必要なリソースや協力体制

【予算計画】

①総予算： 1,000,000 （100万）

円

②費用の内訳（例…印刷費2万円、交通費5万円）：

- ・Zoom Proアカウント 2万円
- ・教材制作費（専門家監修＋デザイン） 25万円
- ・メンター研修費（講師謝礼・資料制作） 10万円
- ・メンターインセンティブ 30万円
- ・AIマッチングシステム開発・運用費 20万円
- ・広報費（SNS広告・ポスター・Webサイト） 4万円
- ・予備費（通信支援・貸出Wi-Fiルーター） 9万円

③資金調達方法

（例…クラウドファンディング、学校からの補助金）：

- ・クラウドファンディング（40万円）
- ・移民・教育系NPO助成金（30万円）
- ・学校PTA支援（10万円）
- ・企業CSR寄付（20万円）

あなたが関心を持つ“グローバルな社会課題”は？

JANIC2025学生アイデアコンテスト応募用紙



その解決に向けて、どんなアクションを起こしますか？

※当てはまる方に☑をいれよう！

④ そのアイデアの実現に向かって今のあなたが踏み出せそうな一歩（アクション）はありますか？

☒すでに取り組んでいることがある：できるだけ具体的に教えてください。

☐まだ実行していない：「これなら始められそう」と思う最初の一歩があれば書いてみてください。

・また、そのアクションを始めるうえで、あるいはさらに広げていくうえで、自分にとってどんな支援や環境があると助かるかも教えてください。

すでに取り組んでいること

私はアメリカの高校で「WOW（Women of the World）」というクラブを立ち上げ、移民家庭の女の子たちの学習とキャリア支援を行っている。部員の約60%が移民家庭出身であり、現在は地域の4校以上の小中学校と連携し、30人以上の生徒を継続的にサポートしている。私の通う高校から20分ほど離れた地域にあるClear Springs High Schoolとの提携も昨年度始まり、活動範囲拡大中である。

主な活動は「学習支援」と「キャリア支援」である。学習支援では週2回、英語を母語としない子どもたちに基礎学習や作文指導を行い、少しずつ自信を持って発言できるようになる姿を見届けている。

キャリア支援では、移民家庭出身の大人の女性リーダーを招いた講演や交流を実施している。たとえば、NASAで活躍する女性エンジニアや、貧困家庭の子どもたちに無料で服を提供するNPOを立ち上げた女性リーダーなどである。インセンティブとして、ボランティアの証明書はもちろんだが、スポンサーである7brew Coffeeの商品提供などを行っている。

彼女たちの体験を直接聞いた生徒は、次第に目を輝かせ、「私も将来こんなふうに社会に貢献したい」と語るようになった。自分と似た背景を持つ大人が力強く活躍する姿は、子どもたちが未来を信じる大きなきっかけになっていると考える。

さらに広げるために必要な支援・環境

活動を進める中で、参加を希望する子どもや協力したい大人の数が増えているが、人材のマッチング・広報・ネットワーク形成がボランティアの力だけでは追いつかなくなっている。特に、学習支援を継続的に受けられる子を増やすには、効率的なメンター割り当てや、より多くの講演者を確保する仕組みが不可欠である。また、Instagramでの発信だけでは活動を必要とする家庭に十分に届かず、広報力の不足が課題となっている。

具体的に必要な支援・環境

- ①AIマッチングツールの導入：生徒とメンターの希望や背景をもとに自動でペアリングし、支援の継続性を高める。
- ②講演者ネットワークづくり：移民家庭出身の女性リーダーを体系的に紹介・招待できるデータベースや協力団体。
- ③広報基盤の強化：SNSだけでなく、学校・地域団体・NPOと連携した広報プラットフォーム。
- ④専門的サポート：子どもたちの心理的安全や学習支援手法について助言してくれる教育・心理の専門家。

